

## 高速増殖原型炉もんじゅ敷地内破砕帯追加調査計画の概要

ポイント	調査計画位置	調査項目	調査内容		
(1) 敷地内の複数の破砕帯の性状(活動年代等)を直接確認するための適切な場所を選定した上で、当該場所における必要な調査(破砕帯内物質の年代特定や上載層の変位・変形の有無等)	①敷地(前面海域を含む。)	敷地内破砕帯に関する情報の整理・検討	・原子力機構が保有する既往工事資料・調査資料等の情報の整理・検討を行う。		
	②原子炉補助建物北東側	物理探査	・地中レーダー探査及び電気探査を行い、a破砕帯の北方延長部を探索する。		
		剥ぎ取り調査 ボーリング調査	・破砕帯の直接確認を行う。 ・破砕帯内物質の年代測定を実施する。		
	③原子炉補助建物南側	物理探査	・地中レーダー探査及び電気探査を行い、堆積層が残存していないかを探索する。		
		ボーリング調査	・ボーリングコア試料のテフラ分析等により、堆積層の年代の検討を試みる。 ・建設時のトレンチ調査における岩盤直上の上載層年代が、さらに古くまで遡れないか検討する。		
	(2) 敷地内の複数の破砕帯と敷地近傍で確認されている変動地形のL-2リニアメント及び周辺の活断層(白木-丹生断層)との地質構造上の関連性を明らかにするための調査	④敷地南東方山地	地表踏査	・L-2リニアメント北端部周辺において破砕帯を探索する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破砕帯の直接確認を行う。</li> <li>・破砕帯内物質の年代測定を実施する。</li> <li>・白木-丹生断層との地質構造上の関連性を検討する。</li> </ul>
		⑤原子炉補助建物北西側海岸線付近		・L-2リニアメント北方延長部において破砕帯を探索する。	
⑥原子炉補助建物北東側山地		・a破砕帯延長部を探索する。			
⑦敷地南方山地		・破砕帯露頭A地点及びB地点周辺において破砕帯を探索する。			
⑧敷地		①～⑦を踏まえた調査		・必要に応じ、破砕帯、L-2リニアメント及び白木-丹生断層との地質構造上の関連性を検討するためのボーリング調査等を行う。	

※調査内容は、調査の状況によって変更となる場合がある。

# 追加調査計画位置図

【①敷地(前面海域を含む。):原子力機構が保有する既往工事資料・調査資料等敷地内破碎帯に関する情報の整理・検討】

f破碎帯(群)の配列方向(推定)

a破碎帯の方向

【⑤原子炉補助建物北西側海岸線付近:地表踏査】

【⑥原子炉補助建物北東側山地:地表踏査】

【②原子炉補助建物北東側:物理探査及び岩盤内部a破碎帯対象剥ぎ取り調査、ボーリング調査】

【⑧敷地:①~⑦を踏まえた調査】

【④敷地南東方山地:地表踏査】

【③原子炉補助建物南側:物理探査及び残存堆積層対象ボーリング調査】

f破碎帯の方向

破碎帯露頭A地点

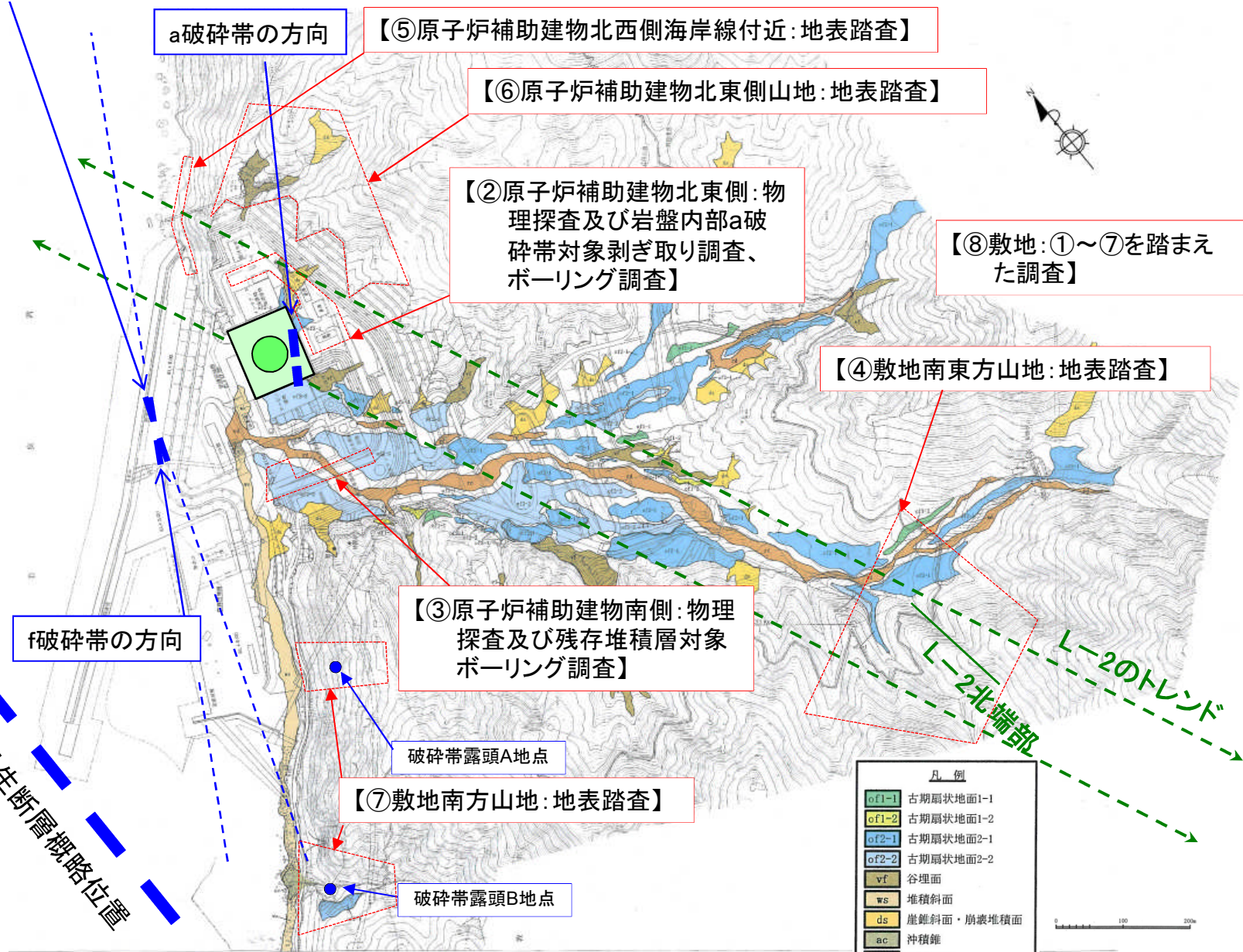
【⑦敷地南方山地:地表踏査】

破碎帯露頭B地点

白木-丹生断層概略位置

凡例

of1-1	古期扇状地面1-1
of1-2	古期扇状地面1-2
of2-1	古期扇状地面2-1
of2-2	古期扇状地面2-2
vf	谷埋面
ws	堆積斜面
ds	崖錐斜面・崩壊堆積面
ac	沖積錐
rd	現河床面



# 高速増殖原型炉もんじゅ敷地内破碎帯追加調査工程

平成24年12月7日現在

調査計画位置	調査項目	平成24年度								
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
①敷地(前面海域を含む。)	敷地内破碎帯に関する情報の整理・検討	情報の整理・検討								
		既往資料整理								
②原子炉補助建物北東側	物理探査	準備		調査	解析					
		許認可手続、契約手続、等								
	剥ぎ取り調査・ボーリング調査				物理探査	調査準備	調査	解析		
③原子炉補助建物南側	物理探査	準備		調査	解析					
		許認可手続、契約手続、等								
	ボーリング調査				調査準備	調査	解析			
④敷地南東方山地	地表踏査	概略調査	検討				調査	解析		
		物理探査				調査				
⑤原子炉補助建物北西側海岸線付近		概略調査	検討				調査	解析		
		物理探査								
⑥原子炉補助建物北東側山地			概略調査	検討				調査	解析	
		物理探査								
⑦敷地南方山地		現場確認、情報整理		概略調査	検討				調査	解析
		物理探査								

(凡例)

□	計画
■	実績

注) ・準備は、許認可手続、契約手続等を含む。  
 ・調査内容及び工程は、調査の状況、分析測定機材の空き具合、天候によって変更となる場合がある。  
 ・更なる工程短縮について継続して検討していく。